



北九州市宿泊税検討会 — 第1回協議資料 —

令和5年6月29日
北九州市産業経済局観光課



1 過去3年間の取組の総括

- (1) 宿泊税制度に関すること
- (2) 北九州市の観光の状況と宿泊税の使途に関すること

2 今後の取組について

- (1) 宿泊税制度のあり方について
- (2) 宿泊税の使途の指針について

宿泊税導入の経緯

導入の経緯

- 令和元年6月26日 北九州市議会において、本市での宿泊税導入に関する決議が可決
⇒外部有識者による「北九州市宿泊税に関する調査検討会議」を設置

同会議報告書 = 今後新たな観光需要などに適切に対応していくため、
宿泊税を導入することが適当である

- 令和元年9月13日 福岡県と協議の上、北九州市宿泊税条例案可決・成立
- 令和2年4月1日 北九州市宿泊税条例 施行

「北九州市宿泊税に関する調査検討会議」での 主な議論

〔宿泊税を財源とする取組の考え方〕

- ① 北九州市観光振興プランに基づく施策に充当する。
- ② 今後の観光動向や、九州全体における北九州市の役割を踏まえた施策に活用する。
- ③ 既存施策への単純な充当は行わない。

検討会議委員

(50音順・敬称略)

氏名	所属
市瀬 一馬	日本旅行業協会 (JATA) 九州支部 北九州委員長 (株)JTB北九州支店 支店長)
入江 昭彦	北九州ホテル協議会 会長 (JR九州ステーションホテル小倉 総支配人)
鏡尾 悦治	小倉旅館ホテル組合 組合長 (小倉ベイホテル第一 代表取締役)
(副委員長) 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
(委員長) 柳井 雅人	北九州市立大学 副学長

制度の概要①

ア 内容

観光資源の魅力向上及び情報発信、旅行者の受入環境の充実、その他の観光の振興を図る施策に要する費用に充てるための**法定外目的税**。

イ 税率

税率（宿泊者1人1泊）	内訳
200円	北九州市 150円
	福岡県 50円

福岡県が課する宿泊税がある場合は、県宿泊税に係る賦課徴収を宿泊税の賦課徴収と併せて行うものとする。

ウ 納税義務者

市内の宿泊施設の**宿泊者に課税**

（宿泊施設＝旅館業法に規定する旅館業に係る施設、国家戦略特別区域法または住宅宿泊事業法に規定する住宅宿泊事業に係る住宅）

エ 徴収方法および特別徴収義務者など

宿泊税の徴収については、**特別徴収**の方法による。

特別徴収義務者は、**宿泊施設の経営者**とする。

制度の概要②

オ 条例の施行状況についての検討

- ✓ 条例の施行から3年経過後、社会経済情勢等の変化等を勘案し、この条例の施行の状況について検討を加える。
- ✓ 必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずる。
※その後においても、5年ごとに同様の検討を行う(宿泊税条例付則第10項による)

《参考》北九州市宿泊税条例付則

- | | | |
|--------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (施行期日) | 1 | この条例は、規則で定める日から施行する。
(令和2年北九州市規則第6号により、令和2年4月1日から施行) |
| (検討) | 10 | 市長は、この条例の施行後3年を経過した場合において、社会経済情勢等の変化等を勘案し、この条例の施行の状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとし、その後においても、5年ごとに同様の検討を行うものとする。 |

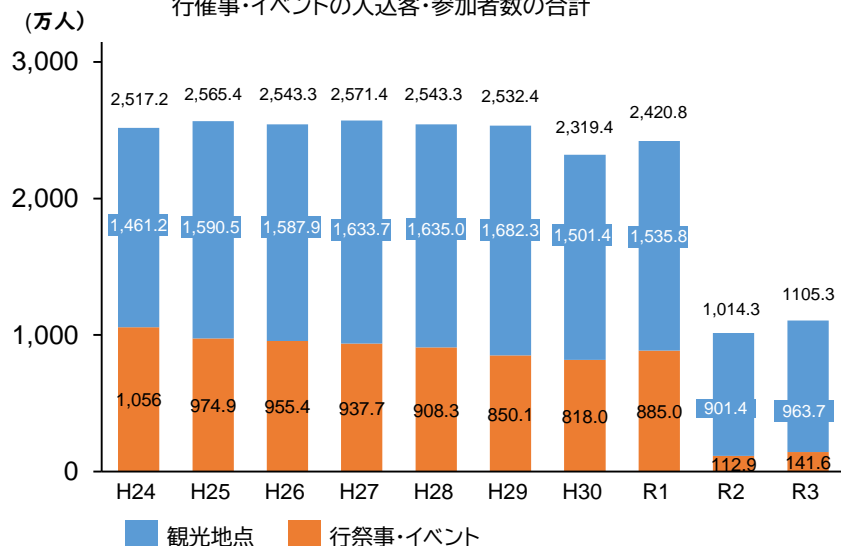
入込客数の推移

- 平成30年のスペースワールド閉園の影響により一時的に落ち込んだものの、令和元年は回復。
- 令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、延べ観光客数では前年比マイナス50%以上の減少。
- その後、令和3年度より、若干回復。

延べ観光客数

図 北九州市の延べ観光客数の推移

※ 観光地点(観光客を集客する施設・拠点等)と
行催事・イベントの入込客・参加者数の合計

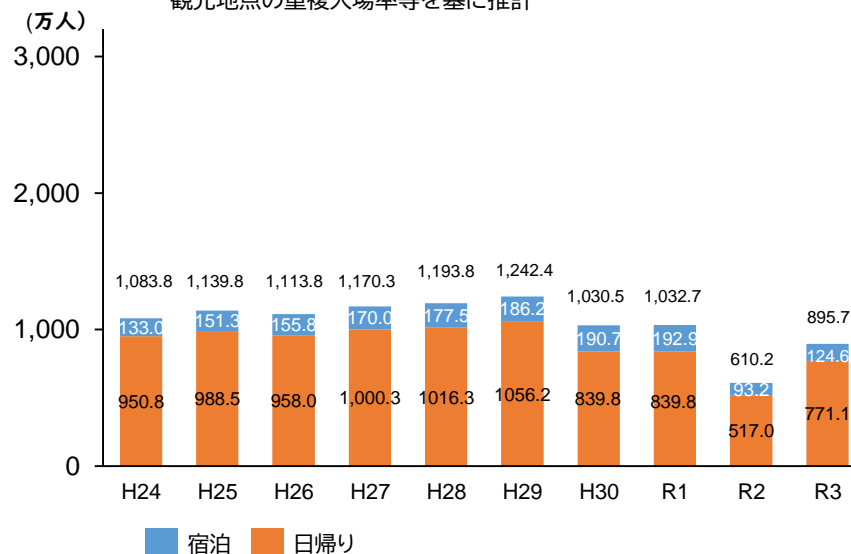


出典：北九州市観光動態調査

実観光客数

図 北九州市の実観光客数の推移

※ 観光地点と行催事・イベントの入込客・参加者数を、
観光地点の重複入場率等を基に推計



出典：北九州市観光動態調査

外国人観光客の状況

- ・ コロナ前は観光客数、宿泊客数とも台湾、中国、韓国で約8割を占めている。
- ・ 令和2年以降は、コロナによる水際対策のため、観光客数、宿泊客数とも大幅減。

外国人観光客数

図 北九州市の訪日外国人観光客数の推移

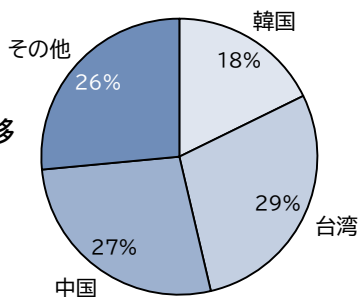
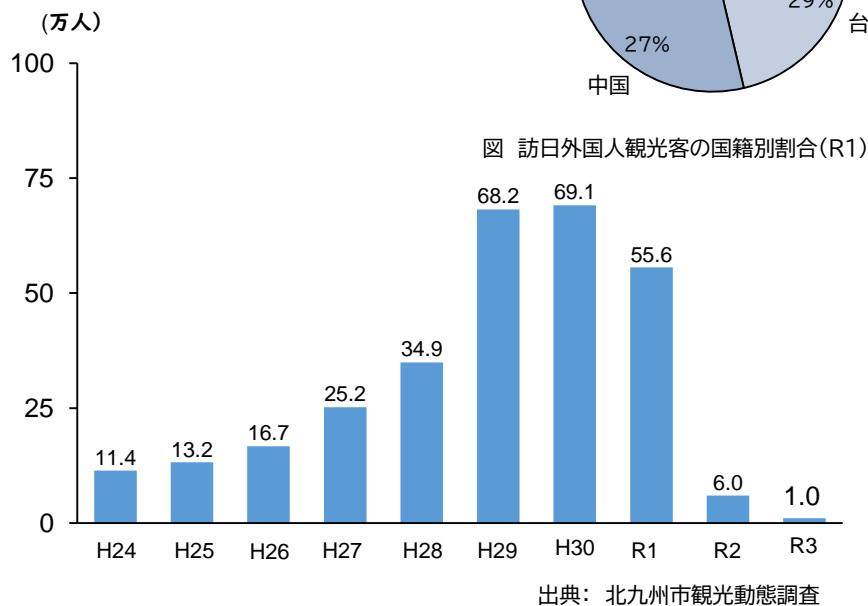


図 訪日外国人観光客の国籍別割合 (R1)

外国人宿泊客数

図 北九州市の訪日外国人宿泊客数の推移

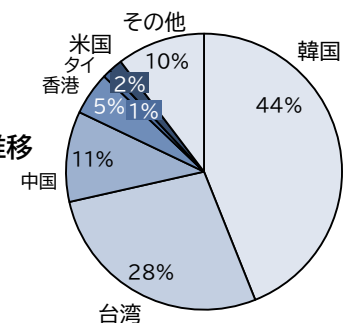
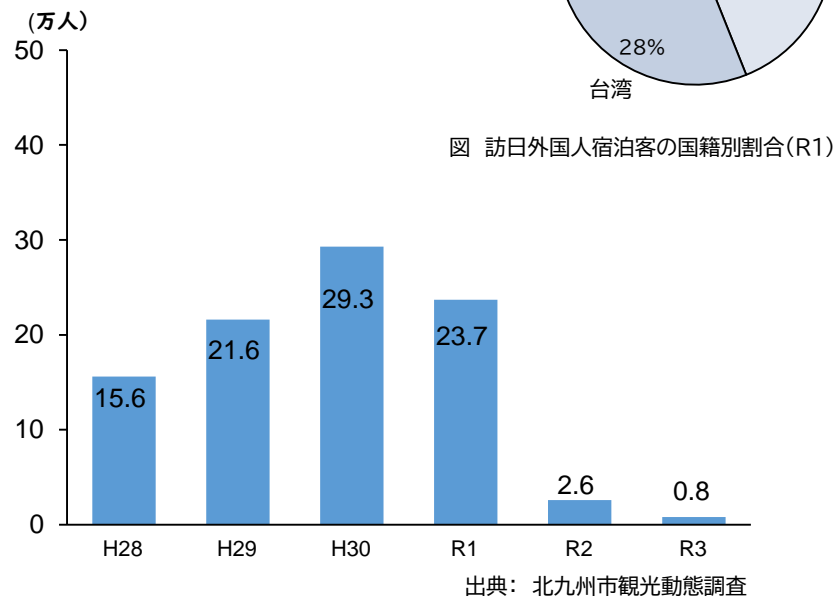


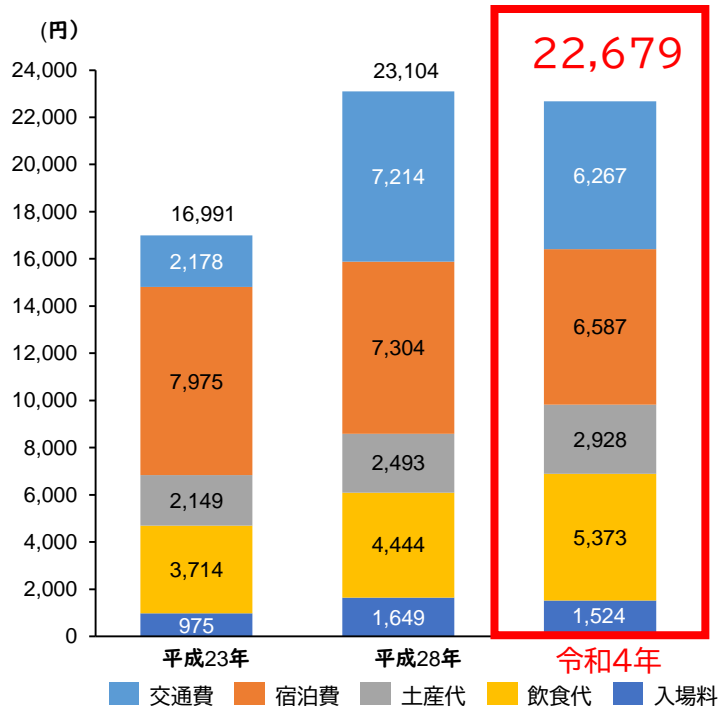
図 訪日外国人宿泊客の国籍別割合 (R1)

観光消費額の推移

- 観光消費額単価は令和4年が**宿泊22,679円**、**日帰り3,277円**。
- 宿泊観光 → コロナ前の水準に**ほぼ回復**。
- 日帰り観光 → 交通費、土産代、飲食代が**減少**。(近隣観光が増えたことによる移動距離の減少、滞在の短時間化が原因と思われる)。

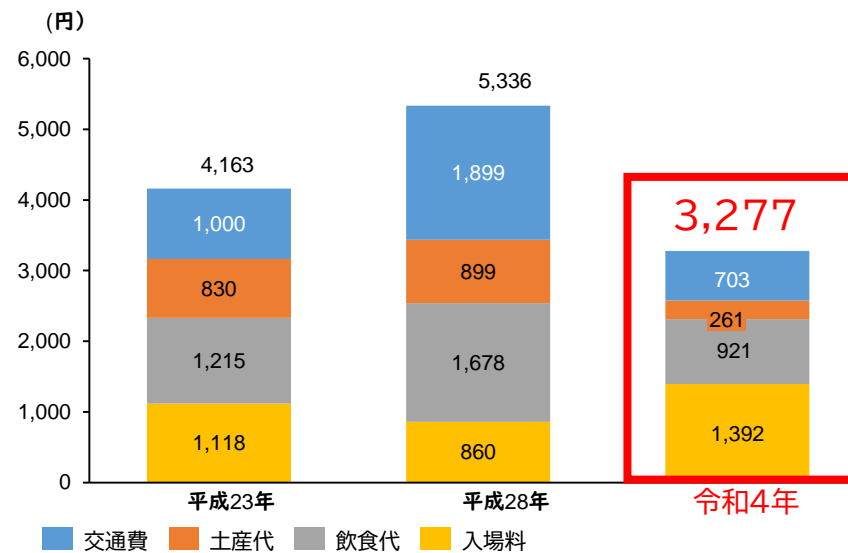
消費額単価 (宿泊)

図 宿泊観光における消費額単価



消費額単価 (日帰り)

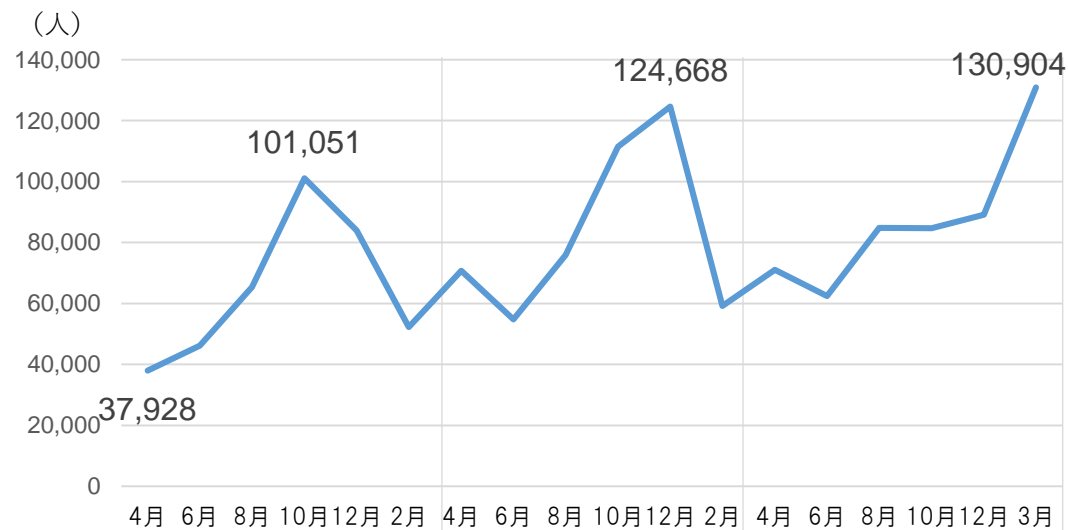
図 日帰り観光における消費額単価



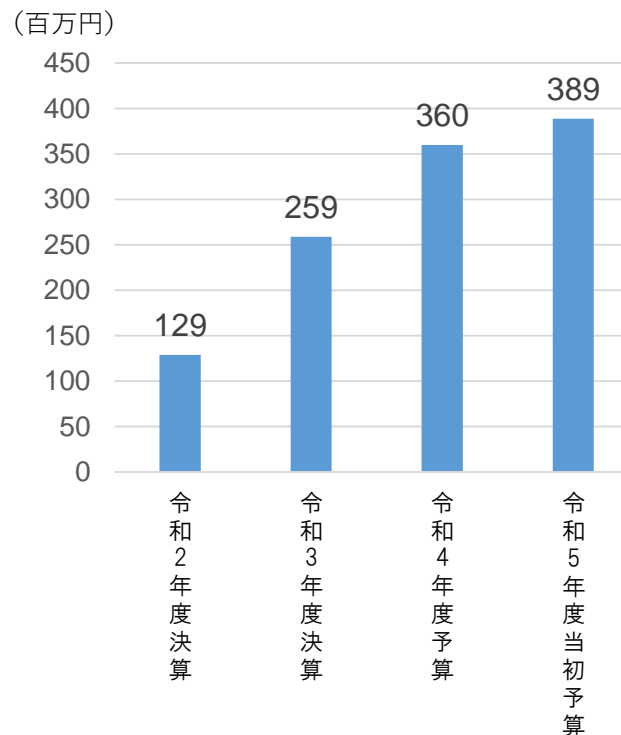
宿泊者数の推移

- ・ 宿泊者数および宿泊税収ともに、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、**大幅に減少**していたものの、令和4年度にかけて**回復基調**

延べ宿泊者数推移



宿泊税収推移



	令和2年度	令和3年度	令和4年度
合計	797,050人	967,178人	1,043,980人
うち外国人	5,517人	12,635人	96,879人

出典：観光庁 宿泊旅行統計調査

(観光課にて集計)

宿泊施設数・客室数・定員の推移

区分	ホテル・旅館			簡易宿所			合計		
	施設数(軒)	客室数(室)	定員(人)	施設数(軒)	客室数(室)	定員(人)	施設数(軒)	客室数(室)	定員(人)
令和2年7月	92	7,925	13,015	25	198	1,857	117	8,123	14,872
令和3年7月	97	8,236	13,580	28	226	1,928	125	8,462	15,508
令和4年7月	96	8,091	13,461	27	223	1,916	123	8,314	15,377
令和5年4月 【参考】	94	7,785	12,501	27	257	1,836	121	8,042	14,337

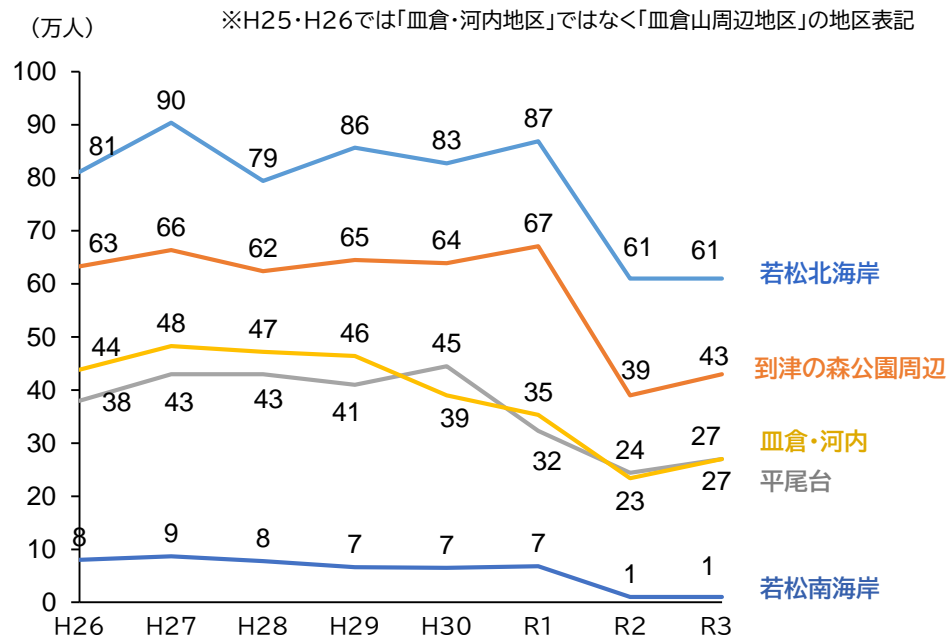
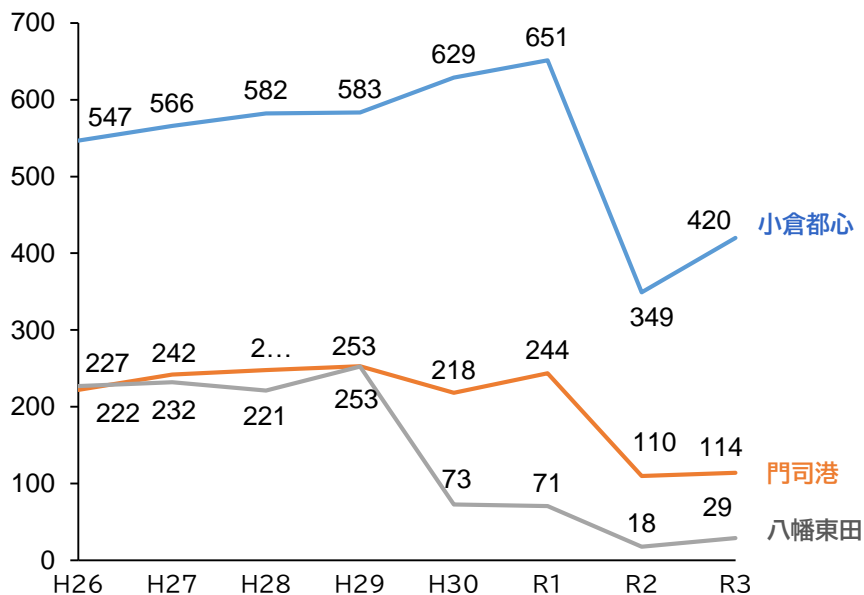
※北九州市が営業を許可している宿泊施設のうち、旅館業法の分類によるホテル・旅館・簡易宿所を集計したもの。風俗関連営業を除いた施設を対象として集計している。社員寮・保養所のうち一般客受入のある施設は、ホテル・旅館に含めている。

(観光課にて集計)

地区別観光客数の推移

- 北九州市の観光の中心は小倉都心、門司港地区。
- 若松北海岸、到津の森公園、皿倉・河内、平尾台等、特色ある地域が広がるが、特に皿倉・河内、平尾台地区は近年減少傾向。

図 北九州市の地区別観光客数
(万人)



出典：北九州市観光動態調査

北九州市の観光資源

— 最近のトピックス —



皿倉山

日本新三大夜景都市 全国1位に！

※「日本新三大夜景都市」とは

夜景観光において国内唯一の事業団体である(一社)夜景観光コンベンション・ビューローが、国内外の夜景観光活性化を目指し、全国の夜景観光士による投票を実施し、集計結果から上位三都市を「日本新三大夜景都市」と認定。

北九州市、札幌市、長崎市(2022年3月認定)

新規施設が続々オープン！



スペースLABO



ジ アウトレット北九州



旧安川邸

北九州市の観光資源

主な観光スポット

- ・小倉城(天守・庭園・テラス)
- ・細川家(茶道・数寄文化)、宮本武蔵・手向山
- ・紫川と都市景観、リバーウォーク、旦過市場・魚町
- ・ぬかみそ炊き、焼うどん、
- ・国際コンベンションゾーン
- ・民間産業ミュージアム(ゼンリン、TOTO等)
- ・市立美術館分館、北九州芸術劇場
- ・平和のまちミュージアム
- ・わっしょい百万夏まつり、小倉祇園

- ・若戸大橋
- ・工場夜景クルーズ
- ・市立美術館本館
- ・旧松本邸
- ・旧安川邸
- ・戸畑祇園
- ・夜宮公園

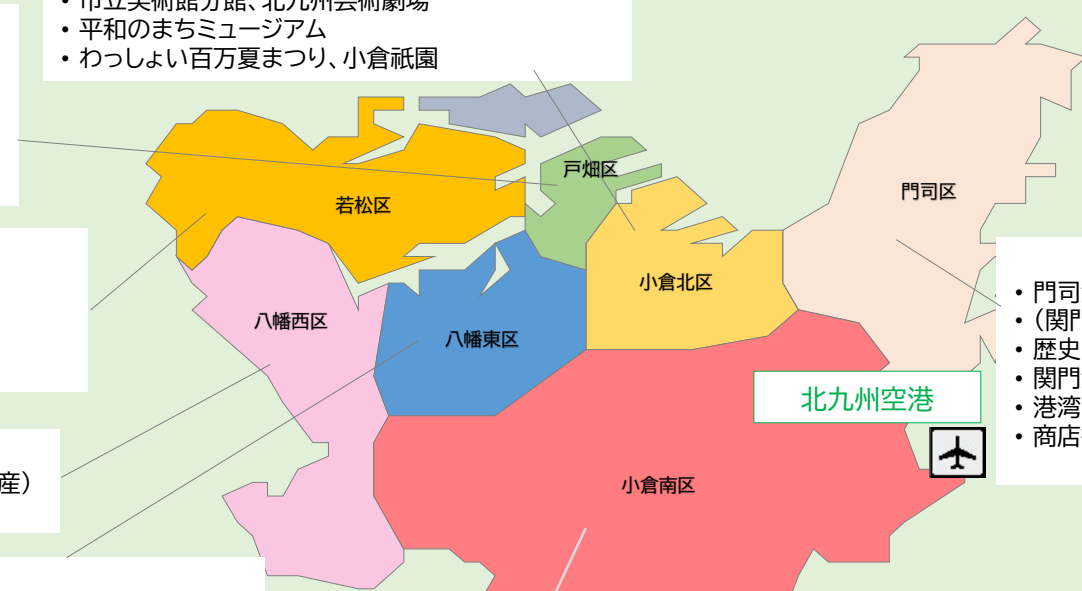
- ・響灘・グリーンパーク
- ・風力・太陽光発電、エコタウン
- ・産業遺産・若松バンド
- ・学術研究都市

- ・畑貯水池
- ・長崎街道(日本遺産)
- ・木屋瀬宿

- ・皿倉山
- ・東田ミュージアムパーク
(いのちのたび博物館、スペースLABO)
- ・世界遺産・旧官営八幡製鐵所関連施設
- ・THE OUTLETS KITAKYUSHU
- ・河内藤園

- ・平尾台(鍾乳洞、トレイル、グランピング)
- ・北九州空港
- ・ます淵ダム周辺(サイクリング)
- ・合馬竹林公園(タケノコ、竹林)

※東田ミュージアムパーク構成施設
 …いのちのたび博物館、スペースLABO、
 スペースLABO ANNEX、北九州市環境ミュージアム、
 北九州市立美術館、東田第一高炉史跡広場、
 旧官営八幡製鐵所関連施設



食	新鮮な海の幸	門司港発祥 焼カレー	ぬかみそ炊き など
自然	平尾台	若松北	皿倉 など
文化	東田ミュージアム パーク	夏祭り	旦過市場 など
歴史	小倉城・庭園	門司港レトロ	旧松本・安川邸 など
夜景	日本新三大夜景都市 全国1位		

- ・門司港レトロ
- ・(関門海峡ミュージアム、九州鉄道記念館)
- ・歴史的町並み・海辺・港湾の景観
- ・関門海峡
- ・港湾クルーズ
- ・商店街・バナナ・スイーツ・焼きカレー

まとめ

内部要因	<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 歴史・文化・自然・食・SDGsなど、バラエティ豊かな観光資源がそろっている ✓ 関西・福岡市から広域に集客が可能な地の利（陸海空の結節点で、交通インフラが充実している） ✓ 出張・MICEなど当面底堅いビジネス需要 ✓ 観光振興財源（宿泊税）が財源としてある など 	<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 北九州の観光と言えば“これ！”という代名詞（キラートンツ）がない ✓ データに基づいた観光動態の分析、活用が不十分 ✓ 交通インフラを活かした北九州市をハブとした取組、発信が不十分。 ✓ 観光資源が市内に散在しており、市内の周遊に時間がかかり、周遊ルートが確立していない ✓ 観光地としての知名度が低い など
外部要因	<p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口約140万人の北九州市都市圏域の中核都市 ✓ 人口約260万人の福岡市域から新幹線で約15分で、利便性が高い⇒マイクロツーリズムなど域内需要の増加 ✓ 外国人観光客の入国基準の緩和 など 	<p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ コロナ後のビジネス需要の変化（減少）の可能性 ✓ 近隣人口の減少、少子化 ✓ 観光「産業」という市民の意識が薄い など

宿泊税を活用した施策一覧

	予算額 (決算額)	主な事業内容
令和2年度	275,000千円 (決算額 128,975千円)	【観光資源の発掘、磨き上げ、受入環境の整備】 <ul style="list-style-type: none"> ・小倉駅観光案内所のリニューアル ・メディアを活用した観光のPR ・修学旅行など団体客誘致
令和3年度	313,000千円 (決算額 258,970千円)	【コロナの影響に苦しむ宿泊事業者、旅行業者等への支援、需要回復に向けた受け入れ環境整備、日本新三大夜景都市再認定に向けた取組強化】 <ul style="list-style-type: none"> ・OTAを活用した宿泊キャンペーン ・デジタルサイネージ設置などによる観光案内機能強化 ・夜景の景観整備やイベント・PRの強化
令和4年度	360,000千円	【コロナをきっかけとして生まれた新たな需要への対応、夜景・産業観光等強みを活かしたプロモーション、持続可能な観光に向けた観光関連施設の整備】 <ul style="list-style-type: none"> ・観光モデルコースの造成、モニターツアーの実施 ・八幡東田地区から市内各所へ周遊モデル事業 ・ワクチン検査パッケージを活用した宿泊・観光助成

令和2年度の主な取組

●実施事業の考え方

北九州市宿泊税調査検討会議から提案があった3つの考え方

1. 北九州市観光振興プランに基づく施策に充当する
2. 今後の観光動向や、九州全体における北九州市の役割を踏まえた施策に活用する
3. 既存施策への単純な充当は行わない

をベースとし、観光振興プランの基本戦略に沿った取組を展開していく。



◎予算 総事業費 455,459千円
【うち宿泊税充当額 275,000千円】
◎決算 総事業費 281,746千円
【うち宿泊税充当額 128,975千円】

戦略1 都市イメージ戦略	【予算】事業費:20,000千円、充当額:20,000千円 【決算】事業費:20,000千円、充当額:20,000千円
北九州市＝観光都市とするためのブランディング ◇メディアを活用した北九州観光PR展開事業 ・地元テレビの情報番組内レギュラーコーナーでの観光PRやイベントの告知等（年間24回）	
戦略2 観光資源の発掘・磨き上げ 【予算】事業費:22,000千円、充当額:17,500千円 【決算】事業費:19,477千円、充当額:15,478千円	
北九州市ならではの地域資源の観光資源化 ◇小倉城周辺歴史文化観光磨き上げ事業 ・大河ドラマと連動した企画展や講演会等の実施 ・しろテラスのフリーWi-Fi整備 ◇皿倉山プレミアム夜景創出事業 ・年間を通じた皿倉ケーブルの夜間運行 ・ホテルと連携したシャトルバスの運行 ・イベント「皿倉プレミアム夜景の日」の実施	 
戦略3 セールスプロモーション 【予算】事業費:46,000千円、充当額:38,500千円 【決算】事業費:35,027千円、充当額:30,163千円	
本市の魅力を伝えるためのセールスプロモーション戦略 ◇修学旅行などの団体客誘致促進事業 ・宿泊や体験メニューに対する助成 ◇日本新三大夜景都市と産業観光コラボレーション事業 ・体験型産業観光素材を活用したツアーの開催 ・日本新三大夜景都市を活用したマスコミ（テレビ、雑誌）でのプロモーション ◇北九州空港新規路線就航促進事業（拡充） ・旅行社やマスコミを対象とした招請ツアーの実施	 
その他経費（システム管理経費等） 【予算】事業費:23,659千円、充当額:15,200千円 【決算】事業費:14,880千円、充当額:8,165千円	

戦略4 受け入れ体制の整備	【予算】事業費:257,800千円、充当額:108,300千円 【決算】事業費:154,335千円、充当額:21,363千円
観光客がストレスフリーで観光を楽しめる環境の整備 ◇観光案内機能強化事業 ・北九州総合観光案内所（小倉駅）の改修 ・交通結節点のフリーWi-Fi整備（小倉駅） ◇商店街満足度向上事業 ・商店街でのキャッシュレス環境整備の促進 ◇北九州空港アクセス推進事業（拡充） ・空港連絡バス（小倉便）の増便（38往復⇒48往復） ◇宿泊施設等改修支援事業 ・宿泊施設改修費の助成制度	 
戦略5 MICE戦略（都市型集客） 【予算】事業費:24,000千円、充当額:24,000千円 【決算】事業費:19,722千円、充当額:19,722千円	
MICE戦略を強化し、都市型集客を促進する ◇MICE開催助成（拡充） ・宿泊につながるMICE開催経費の支援	
戦略6 インバウンド戦略	【予算】事業費:62,000千円、充当額:51,500千円 【決算】事業費:18,305千円、充当額:14,084千円
アジアを中心とした海外からの誘客を促進 ◇インバウンド誘致強化事業 ・団体旅行客向け宿泊助成 ・他都市と連携した「エクスペディア」等の欧米豪に向けた海外オンライン旅行社への記事掲載 ・外国人の個人観光客向けの日帰りバスツアーの実施 ・外国人観光客向けの食サイトの運営 ◇海外ウェブサイトを活用した戦略的インバウンド誘致事業 ・動画コンテンツの制作及び配信 ・他都市と連携した、ウェイボーへのインフルエンサー動画配信、マフォーウォー等への記事掲載、Ctripへの情報掲載といった中国向け「ワンストッププロモーション」の実施	  

令和3年度の主な取組

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に苦しむ宿泊事業者・旅行業者等への支援を実施する。
- ・観光需要の回復を見据え、必要な受入環境整備を行う。
- ・日本新三大夜景都市再認定へ向けた取組を強化する。

◎ 予算：総事業費774,982千円【うち宿泊税充当額313,000千円】
 ◎ 決算：総事業費838,811千円【うち宿泊税充当額258,970千円】

● 宿泊事業者等への支援

- ・OTAを活用した宿泊キャンペーン事業
旅行予約サイト（OTA）を活用して、客室を割安で販売し、市が差額を助成するキャンペーンを実施
- ・北九州市旅行商品造成助成事業
市内での宿泊を伴う商品や、市内観光施設への入場・食事が含まれる商品を造成した旅行社に対し助成金を支給
- ・修学旅行などの団体客誘致促進事業
宿泊を伴う団体客の誘客を図るため、エージェント向けの宿泊助成等を実施
- ・宿泊施設等改修支援事業
宿泊客の受入環境を充実させるためのバリアフリー化などの施設改修費を支援



【予算】 事業費 128,000千円、充当額 128,000千円
 【決算】 事業費 193,804千円、充当額 79,675千円

● 受入環境の整備

- ・観光案内機能強化事業
新たに完成する小倉駅3F北九州総合観光案内所の運営機能強化を行うとともに、ペDESTリアンデッキにデジタルサイネージを設置
- ・北九州国際展示場施設整備事業
世界体操・新体操2021に向け、新体操会場となる展示場の改修を実施
- ・観光地の「まちあるき」満足度向上整備支援事業
門司港レトロ地区で無料Wi-Fiやデジタルサイネージを整備



【予算】 事業費406,700千円、充当額 54,600千円
 【決算】 事業費427,066千円、充当額 84,683千円

● 日本新三大夜景都市再認定への取組

- ・皿倉山頂夜間景観整備事業
本市を代表する夜景観賞地である皿倉山において、夜間観光を楽しめる景観を整備
- ・施設ライトアップ整備事業
夜景観光を推進するため小倉城庭園・国際会議場のライトアップを整備
また小倉城庭園の魅力をもっと高めるため展示改修も実施
- ・皿倉山プレミアム夜景創出事業
山頂展望台でのレーザーショーや無料シャトルバスの運行
- ・日本新三大夜景都市と産業観光コラボレーション事業
夜景に関する全国的なコンベンションの誘致や夜景イベントを開催し、本市の夜景の魅力のPRを更に強化
- ・夜景モニターキャンペーン事業
夜景観光士・夜景観光関係者を対象に、本市の夜景スポットを無料で利用できるパスポートを配布し、本市夜景観光のPRを強化



【予算】 事業費 116,500千円、充当額 30,900千円
 【決算】 事業費 116,162千円、充当額 27,905千円

● その他観光振興事業

- ・メディアを活用した北九州観光PR展開事業
- ・インバウンド誘致強化事業
- ・小倉城周辺歴史文化観光磨き上げ事業
- ・MICE誘致推進強化事業（拡充）
- ・北九州空港誘客強化対策事業
- ・北九州空港新規路線就航促進事業 等



【予算】 事業費99,500千円、充当額 89,000千円
 【決算】 事業費83,092千円、充当額 61,358千円

その他（システム管理経費等）

【予算】 事業費24,282千円、充当額10,500千円
 【決算】 事業費18,687千円、充当額 5,349千円

令和4年度の主な取組

- ・コロナをきっかけとして生まれた新たな観光需要への対応
- ・本市の強み（夜景・産業観光）を活かした誘客プロモーション
- ・コロナ禍を乗り切るための宿泊事業者・旅行業者等への支援の継続
- ・持続可能な観光に向けた観光関連施設の整備

総事業費495,660千円
【うち宿泊税充当額 360,000千円】

●新たな観光需要への取組

- ・北九州「新たな旅のスタイル」促進事業
市内観光周遊のための観光モデルコースを造成し、PRやモニターの実施
- ・八幡東田発！市内周遊観光創出事業
八幡東田地区に訪れる観光客を市内各所へ周遊するため、インフォメーション機能の強化や周遊モデル事業の実施
- ・インバウンド誘致強化事業
オンライン商談会やメディア・旅行社等FAMツアーなどのプロモーションや広報物の多言語化など受入環境整備の実施
- ・日本遺産「関門“ノスタルジック海峡”」PR事業
日本遺産のオンラインツアーの造成やデジタルスタンプラリーの実施

事業費 133,500千円 (宿泊税充当額 69,250千円)

●夜景ブランド・産業観光を活かした誘客プロモーション

- ・日本新三大夜景都市ブランドを活用した夜型観光促進事業
「日本新三大夜景都市」ブランドを活かした旅行会社へのプロモーションや観光客向け夜景イベントの実施
- ・皿倉山プレミアム夜景創出事業
山頂展望台付近でのイルミネーションや駅・ホテルを經由する無料シャトルバスの運行
- ・全国産業観光フォーラムin北九州開催事業
国内最大のフォーラム「全国産業観光フォーラム」の誘致や産業観光協力事業所へのオンライン見学整備費等の一部助成
- ・門司港レトロ・和布刈地区にぎわい創出事業
夜景やイルミネーションを活用した「夜の賑わいイベント」などの実施



事業費 40,500千円 (宿泊税充当額 26,750千円)

●宿泊事業者等への支援

- ・北九州安全・安心の旅応援事業
ワクチン検査パッケージを活用した料金割引を行う
宿泊施設及び旅行社に対して助成金の支給
- ・修学旅行などの団体客誘致促進事業
宿泊を伴う団体客の誘客を図るため、エージェント向けの宿泊助成等の実施
- ・宿泊施設等改修支援事業
宿泊客の受入環境を充実させるための施設改修費の支援



事業費 132,300千円 (宿泊税充当額 132,300千円)

●持続可能な観光に向けた観光関連施設の整備

- ・皿倉山周辺施設長寿命化推進事業
- ・小倉城続橋基本計画及び耐震補強計画策定事業
- ・和布刈地区観光拠点化推進事業

事業費 73,700千円
(宿泊税充当額 38,900千円)

●その他観光振興事業

- ・次期観光振興プラン策定事業
- ・MICE誘致推進強化事業
- ・北九州空港誘致強化対策事業

事業費 100,300千円
(宿泊税充当額 85,300千円)

その他（システム管理経費等）事業費 15,360千円 充当額 7,500千円

北九州市観光振興プラン

- 令和5年4月に改訂。取組期間は令和5年度から令和9年度の5年間。
- 北九州市の観光振興の基本的な方向性を示すとともに、宿泊税をより有効に活用させるための指針とする。

1 目指す姿

「暮らす人」「訪れる人」がともにわくわくする観光・交流都市
～ゲストとして迎え、友人として送り出そう～

2 基本目標

- ① 「夜景」「門司港レトロ・城下町小倉の歴史文化」など北九州市がこれまで育んできた魅力を一層向上
- ② まずは周辺都市域約400万人のマイクロツーリズム需要の取り込み
- ③ 加えて宿泊を占めるビジネス客が、もう一か所、もう一泊を楽しむ「プラスワン観光」の魅力を提供

4つの戦略

戦略Ⅰ	「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ
戦略Ⅱ	ファン・リピーターづくりのための戦略的なプロモーション
戦略Ⅲ	「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備
戦略Ⅳ	何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり

KPI（重要業績評価指標）

	コロナ禍前 (R元年)	R3年	目標 (R7年時点)
観光客数	2,420.8万人	1,105.3万人	3,000万人
宿泊客数	192.9万人	124.3万人	240万人
観光消費額	1,345億円	399億円	1,700億円
市民の満足度	—	65.7%	75%

取組期間後半（R8～9年）のKPIは、前半状況などを踏まえて再設定

観光振興プランを実現するための4つの戦略

戦略Ⅰ 「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ

「暮らす人」「訪れる人」双方の目線で、夜景、歴史や文化芸術などの北九州市の魅力、もう一か所、もう一泊を促す「プラスワン観光」につながる魅力の発掘・磨き上げに取り組みます。

戦略Ⅱ ファン・リピーターづくりのための戦略的なプロモーション

北九州市のディープな魅力を、北九州市を訪れる前の段階から触れることができる情報発信、ビジネスやMICE、インバウンドなどにつながるプロモーション強化などに取り組みます。

戦略Ⅲ 「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備

公共交通機関や観光案内などのおもてなし環境の改善、デジタル技術の活用や、ユニバーサルデザインの導入などによって、より便利・快適な環境整備に取り組みます。

戦略Ⅳ 何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり

北九州市の観光に携わる人や組織との連携、広域連携などプラン実現に向けた体制強化を進めます。また、危機管理やSDGs推進、人材育成といった基盤強化に取り組みます。

観光振興プランを実現するための戦略①

戦略Ⅰ 「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ

【推進していく主な取組】

北九州市が誇る歴史・文化・食の魅力発掘・一層の磨き上げ

- ・ 小倉城、門司港レトロ・和布刈地区の魅力向上
- ・ 北九州市の魅力あふれる食のPRや新たな名物・おみやげものづくりの検討

新しい魅力の発掘・創出

- ・ 若松北海岸や平尾台など自然を活かした体験型、滞在型観光の促進
- ・ スポーツツーリズム、ポップカルチャー、映画やドラマ等のロケ地など、文化芸術を活かした誘客促進

夜景を中心とした夜型観光の魅力向上

- ・ 地元飲食店などへの誘導によるナイトタイムエコノミーの促進
- ・ ライトアップによる夜間景観の向上や安全安心な夜景観賞のための環境整備

もう一か所、もう一泊を促す「プラスワン観光」につなげる
観光資源など、文化関連施設の「ストーリー化」

- ・ 歴史や文化などのストーリーを意識した観光モデルコースの磨き上げ



観光振興プランを実現するための戦略②

戦略Ⅱ ファン・リピーターづくりのための戦略的なプロモーション

【推進していく主な取組】

市民や近郊在住者が自ら発信したくなる仕組みづくり

- ・ パブリックアートなど気軽に発信できるフォトスポットづくりの検討

旅マエからわくわくするディープな北九州市の発信

- ・ 北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」などでの案内機能の強化

ビジネス・MICEなど様々な目的で訪れる方への「プラスワン観光」の強化

- ・ アフターコンベンションなどで楽しめる観光資源の一層の強化とその発信

インバウンドへの戦略的対応

- ・ 北九州空港・福岡空港を軸にした多角的な誘客プロモーション
- ・ 大規模イベント・スポーツ大会などの機会を活かした情報発信

MICEやイベントなどの誘致強化

- ・ 社会ニーズに対応した大規模集客イベントなどの誘致
- ・ 安全安心・快適なMICE開催のための設備・機能強化



観光振興プランを実現するための戦略③

戦略Ⅲ 「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備

【推進していく主な取組】

誰もが快適かつスマートに北九州市の観光を楽しめる公共交通の利用促進

- ・ 観光分野でのM a a Sの活用など、公共交通機関との連携強化

訪れる人がストレスなく観光を満喫できる環境づくり

- ・ 旅の目的地となるような観光ホテル誘致の検討
- ・ 観光施設などでのユニバーサルツーリズムの推進



観光DXの推進による利用者の利便性・満足度の向上や、事業者の生産性向上

- ・ ビッグデータなどデジタルテクノロジーを活用したマーケティングの強化
- ・ 観光施設におけるキャッシュレス対応やデジタルチケットの導入の推進

観光振興プランを実現するための戦略④

戦略Ⅳ 何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり

【推進していく主な取組】

観光関係の組織や企業・個人など、北九州市の多様な主体が活躍できる仕組みの構築

- ・ 企業が観光分野の担い手として挑戦・投資・参入しやすい環境づくり

県、北九州都市圏域、山口県などと連携する広域観光推進の体制づくり

- ・ 宿泊観光・滞在時間延長につながる九州内や周辺地域との連携の充実

宿泊税の用途を戦略的に検討できる体制づくり

- ・ 宿泊税の用途などを検討する外部有識者などによる会議体制の設置

災害や感染症などへの危機管理体制の強化

- ・ 危機事象におけるウェブや観光案内所などでの情報発信体制の整備



令和5年度の主な取組

観光振興プランの基本目標である

- ・北九州市がこれまではぐくんできた魅力の一層向上
- ・マイクロツーリズム需要の取り込み
- ・もう一か所、もう一泊を楽しむ「プラスワン観光」の魅力提供

総事業費553,223千円
【うち宿泊税充当額 389,000千円】

の達成のための4つの戦略に沿って取組を推進

<p>戦略 I 「暮らす人」「訪れる人」がともに楽しめる観光資源の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一か所、もう一泊を楽しむ「探検・北九州！ワンデイバス」事業 宿泊者向け市内路線バスの1日フリー乗車券の発行や、お勧めモデルコースを紹介するQRコードを市内宿泊施設の各客室などに設置し、「プラスワン観光」を促進 ・北九州「旅のストーリー」磨き上げ事業 市内周遊促進や観光客誘致を図るため、観光モデルコースや、体験型観光メニューを更に磨き上げ、効果的なプロモーションの実施 ・全国産業観光フォーラムin北九州開催事業 産業観光に関する国内最大のフォーラムの開催及び産業観光協力事業所の受入態勢強化等を図る。 など <p>事業費 156,000千円（宿泊税充当額 103,000千円）</p>	<p>戦略 II ファン・リピーターづくりのための戦略的プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアを活用した北九州観光PR展開事業 マイクロツーリズムを促進するため、県内及び近郊在住者を対象に、ローカルテレビ局を使った情報発信の実施 ・観光地ブランド力創出事業 観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」及び各種SNS等により、地域・人・食などのストーリーやモデルコースの提案等、観光地としての魅力を発信 ・インバウンド誘致強化事業 外国人観光客の本格的な回復に向けて、周辺自治体等と連携した各種プロモーションの実施、受入環境整備、宿泊助成やクーポン配付等の実施 など <p>事業費 175,700千円（宿泊税充当額 148,550千円）</p>
<p>戦略 III 「訪れる人」の満足度向上に向けた環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本新三大夜景都市施設魅力向上事業 本市代表的な夜景スポットである皿倉山での夜景観賞の快適性向上のため、展望台施設のトイレ改修による環境整備の実施 ・市内宿泊施設・観光施設のDX促進事業 コロナ後の旅行需要の拡大、インバウンドの復活を見据え、本市の宿泊施設等や観光施設等によるDXの加速に向けた取組、キャッシュレス化促進を支援 ・宿泊施設等改修支援事業 市内宿泊施設等による付加価値向上などに向けた新規投資の一部を補助し、宿泊客の満足度向上や宿泊施設等の生産性向上を支援 など <p>事業費 144,100千円（宿泊税充当額 74,688千円）</p>	<p>戦略 IV 何度も訪れ、楽しんでもらうための持続可能な観光地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン成長を見据えたEVバス等活用事業 ゼロカーボンシティの実現に向け、EVバスでの夜景ツアーや、洋上風力を活用したモニターツアーの実施 ・宿泊税施行状況検討事業 北九州市宿泊条例に基づき宿泊税を活用した観光振興への取組の効果検証や今後の活用の方向性についての検討等の実施 など <p>事業費 54,200千円（宿泊税充当額 48,200千円）</p> <p>その他(システム管理経費等)事業費 23,223千円 充当額 14,562千円</p>

課税要件などについて

項目	導入時の考え方 (調査検討会議での方針)	現状	今後のあり方
納税義務者、 課税免除・ 免税点	<ul style="list-style-type: none"> ◆公平性の観点から納税義務者は<u>すべての宿泊者を対象とすることが望ましい</u>。 ◆<u>広く課税し公平性を確保することが適当</u>である。 ◆特別徴収義務者となる宿泊事業者の事務負担も考慮の上、<u>簡素な制度とすることが望ましい</u>。 ◆<u>修学旅行生等を課税免除の対象としている自治体も見受けられるが、宿泊事業者の事務負担等も考慮し、慎重な検討が必要</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の宿泊施設の宿泊者に課税 ● 課税の公平性、特別徴収義務者(宿泊施設)の事務負担を考慮し、課税免除、免税点は設定していない 	
税率	<ul style="list-style-type: none"> ◆福岡県との二重課税を考慮し、宿泊者の負担は200円/人泊とする。福岡県と北九州市の割合については、福岡市の税率(1人1泊150円)を念頭に置き、福岡県との協議による。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 税率 200円/人泊 (うち北九州市分 150円、福岡県分 50円) 	
徴税方法等	<ul style="list-style-type: none"> ◆先行導入事例のすべてが特別徴収としており、特別徴収義務者は、基本的には宿泊事業者とすることが適当である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別徴収の方法により、特別徴収義務者は、宿泊施設の経営者とする 	

使途について

〔これまでの考え方〕北九州市宿泊税に関する調査検討会議での議論

- ① 北九州市観光振興プランに基づく施策に充当する。
- ② 今後の観光動向や、九州全体における北九州市の役割を踏まえた施策に活用する。
- ③ 既存施策への単純な充当は行わない。

各年の主な取組

【令和2年度】

- 北九州総合観光案内所など受け入れ体制の整備など

【令和3年度】

- コロナの影響に苦しむ宿泊・観光事業者への支援など

【令和4年度】

- 夜景・産業観光を活かした誘客プロモーションなど